

## 都中理環境教育委員会報告

### 東京都中学校理科教育研究会環境教育委員会「研究授業・講演会」

平成28年1月14日(木)

13:25~16:50

墨田区立両国中学校

#### 1 出席者(21名)

都中理事務局長	山口 晃弘 (品川区立八潮学園校長)		
委員長	岩崎 守也 (八王子市立南大沢中学校長)		
副委員長	遠藤 淳 (府中市立府中第六中学校長、北中理委員長)		
副委員長	大澤 秀吉 (青梅市立第三中学校副校長)		
役員	坂内 温実 (品川区立伊藤学園指導教諭)		
役員	黒田 俊一 (墨田区立両国中学校教諭)		
元都中理役員	添田 禮子	葛飾区立一之台中学校	河野 晃
文京区立第十中学校	佐藤 友里子	目黒区立東山中学校	奥村 健夫
青梅市立第三中学校	樋口 哲平	世田谷区立砧南中学校	岩波 一樹
渋谷区立代々木中学校	清水 寿里	墨田区立錦糸中学校	雄賀多 加奈子
町田市立つくし野中学校	上村 雅彦	青梅市立第三中学校	吉永 美菜
墨田区立文花中学校	田島 信恵	足立区立第十一中学校	田口 隆
江東区立大島中学校	山下 結里	板橋区立向原中学校	濱田 絢子
大田区立六郷中学校	星野 真由美		敬称略

#### 2 研究授業

内容:「ツキノワグマとカスミザクラの果実との関係から、自然界でのツキノワグマの役割を考える」

授業者:墨田区立両国中学校 教諭 黒田 俊一

- ・ツキノワグマが、カスミザクラの種子を他の動物に比べて大変遠いところまで運ぶこと
- ・ツキノワグマが、ブナやカシの実の豊作の年は移動範囲が狭く、不作の年は移動範囲が広がること
- ・ブナやカシの実が不作の年は、ツキノワグマにとっては厳しい年になるが、植物にとっては自分の種子が遠くまで運ばれるチャンスになることなどを、東京農工大学の小池先生の研究資料を使って生徒に考えさせる授業を行いました。



#### 3 研究協議会

・授業者自評・平成27年度の都中理環境教育委員会の活動の紹介・研究協議を行いました。



#### 4 講演会

内容「シカ、クマ、イノシシをはじめとする日本に生息する大型野生動物の生態を通して日本の自然や生態系の仕組み、生物多様性の意味を考える」

講師 東京農工大学農学部 地域生態システム学科 小池 伸介 先生

講演の内容(抜粋)

- ・日本は国土の面積当たりで見ると、哺乳類の数が多い。
- ・日本の森林の適正な管理が、日本の哺乳類の保全にとっては大切である。
- ・ニホンジカは、森林または草原に住む。春から夏は崩壊地・法面の緑化植物、冬はササを食べる。ニホンカモシカはウシの仲間であり、日本固有種である。
- ・ツキノワグマは、本州特に東日本に多く分布している。九州はほぼ絶滅と考えられている。
- ・1978年と2003年を比べると、ニホンジカ1.7倍、イノシシ1.3倍、ニホンザル1.2倍、ツキノワグマ1.1倍と数が増えている。現在はもっと数を増やして分布域を広げていると考えられている。
- ・日本の森林は成長し、野生生物にとっては住みよい環境になっている。
- ・人間の生活の変化により中山間地域(里山)の減少したことで、野生生物との緩衝帯がなくなり、耕作放棄地に野生動物が多く見られるようになった。

